

V 資料

1 年次に行った事例について（No.1～11 の計 11 名）

NO.1

規律の遵守に課題のある生徒

（1）実態の整理

① よさ

- | | | |
|--------------------|------------|--------|
| ・分からないことを聞くことができる。 | ・明るい | ・ポジティブ |
| ・挨拶ができる | ・人懐っこい | |
| ・素直 | ・友達と仲良くできる | |

② 課題

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| ・人に流されやすい | ・行動が落ち着かない | ・けじめがない |
| ・友達と騒ぐ | ・指示待ち | ・姿勢が悪い |
| ・考えないで発言する | ・言葉が悪い | ・思いや考えを言語化できない |

（2）指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | | | |
|-----------------|--------|---------|
| ・思考や考えを言葉にできない。 | けじめがない | 友達に流される |
|-----------------|--------|---------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|-----------|-------------|
| ・言葉を知らない | ・教えてもらっていない |
| ・経験不足 | ・目標がない |
| ・人を信頼できない | ・注意されたことがない |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | |
|-------------------|
| ・状況に応じて適切な判断ができる。 |
|-------------------|

「必要だと考える環境」

- | | | |
|---------|----------------|--------------|
| ・ルールの明示 | ・丁寧な説明 | |
| ・具体例の提示 | ・反省、振り返りシートの活用 | ・面談や書く機会を増やす |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○状況に応じて適切な判断ができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	○ (1)生活のリズム や生活習慣の 形成に関する こと	(1)情緒の安定に 関すること	○ (1)他者との力か わりの基礎に 関すること	(1)保有する感覚 の活用に関す ること	(1)姿勢と運動・ 動作の基本的 技能に関する こと	(1)コミュニケー ションの基礎 的機能に関す ること
	(2)病状の理解と生活管 理に関すること	○ (2)状況の理解と 変化への対応 に関すること	(2)他者の意図や 感情の理解に 関すること	(2)感覚や認知の 特性について の理解と対応 に関すること	(2)姿勢保持と運 動・動作の補 助手段の活 用に関すること	○ (2)言語の受容と 表出に関す ること
	(3)身体各部分の状 態の理解と養 護に関すること	(3)障害による学 習上又は生活 上の困難を改 善・克服する意 欲に関すること	○ (3)自己の理解と 行動の調整に 関すること	(3)感覚の補及 や代手段の 活用に関す ること	(3)日常生活に必 要な基本的動 作に関すること	(3)言語の形成と 活用に関す ること
	(4)障害の特性の 理解と生活習 慣の調整に関 すること		(4)集団への参加 の基礎に関す ること	(4)感覚を総合的 に活用した周 囲の状況につ いての把握と 状況に応じた 行動に関す ること	(4)身体の種類能 力に関すること	○ (4)コミュニケー ション手段の 選択と活用に関 すること
	(5)健康状態の維持・改善に関 すること			○ (5)認知や行動の 手掛かりとなる 概念の形成に 関すること	○ (5)作業に必要な 動作と円滑な 遂行に関す ること	(5)状況に応じた コミュニケーションに関 すること

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	SHR・LHR・社会生活 担任・副担任	作業学習 授業担当者	各教科 授業担当者
指導内容 (目指す姿)	○その日その日の目標を達成する。 ○正しい言葉使いで会話する	○今すべきことに気が付いたり、次に目指すものまでに必要なことを考えることができる。 ○他者への伝え方（適したもの）	○学習規律を守る

指導方法 (手立て)	- 文章やプリントでルールを明示する。(視覚的な配慮) - 面談を繰り返す。 - 具体的な例を挙げて丁寧に説明する。 - 即時的に伝える。 - 判断の何が良くてどう効果があったのかを褒める。	- リーダー的な役割を与えて全体を見たり終わりまでの見通しを持つことが出来る場面を設定する。 - 自分の行動の振り返り、反省をチェックシート等で行う。 - 判断の結果良かったことと改善すべきことを即時に伝える。	指導者を通じて同じルールを繰り返し伝えて判断基準を身につけさせる。
---------------	---	---	---

(4) 指導の結果

- ・クラス全体に大切な話があると伝えたところ、自分から足を机に入れて話を聞く姿勢を整えることができたので、気付きを褒めた。
- ・マスクから鼻が出ていることが相変わらず多いが、話しをするときに「ちゃんとしてから」と伝えることで、鼻をしまったので褒めた。どうすべきなのかわかってきている様子。
- ・国語の授業で喜多先生の自習監督で入ったときに、喜多先生が、学習の行程をプリントで手紙風に指示を与えたところ、その指示に沿って取り組むことができていた。
- ・なんとなく、やるべきことが分かってきている(意識はしている)が、まだまだ声かけが必要。
- ・「鼻出てる」をHDと暗号にすることで意識している。
- ・場面やメンバーによっては、リーダーシップを見せる場面も見られた。
- ・音楽では、積極的な場面が多く見られる。
- ・体育のマット運動では、難しい演技をこなし、自己肯定感が高まっているのか、頑張っている姿が見られる。
- ・社会で良い気づきがあり、即座に取り上げて、承認した。引き続き、積極的に授業に取り組んだ。

(5) まとめ

○成果

- ・当初の課題であった学校生活の規律を守るための手立て・目標に関しては、前回の研究日あたりでも、定着してきた感のある報告があった。今回は、新たな目標立て、場面設定をしてもよいのではないかという意見も多く、小野先生がお話しされていたように「主体性」を育む場面設定を考えていきたい。特に学校祭では、活躍できる場面も多く、様々なグルーピンでの活動も増えることから、友好的な場面の構築を注意深く探してみたいと思う。
- ・良い環境に身を置けると良く変化する。落ち着ける。
- ・楽しいこと、興味あることには良く取り組み、成果を自信にできる。

○課題

- これから、マスク以外の生活規律についても指導をしていく。
- 自分がどうしたいというわけではなく、言われたら受け入れる。発展途上。(追加すること)
- 同時に学校祭の実行委員会では主体性にムラがあり、新しい課題も見られる。
- やりたくないこと、興味の無いことに対する取り組みが悪い。
- 影響されやすい。
- 自己表現のアンバランスさ。

NO.2

意思表示に課題のある生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | |
|----------|----------|
| • 素直 | • 協調的 |
| • 大人しい | • 清潔感がある |
| • 柔らかい表情 | |

② 課題

- | | |
|--------------|--------------------------|
| • マイペース | • 指示待ち |
| • 協働が苦手 | • 分からないことを聞けない |
| • 行動パターンが少ない | • 自分が「わかってない」ことが「わかってない」 |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | | |
|-----------------------|----------|
| • 困っていても笑顔でやり過ごそうとする。 | • 発信が弱い。 |
|-----------------------|----------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|---------------|-----------------------|
| • 困ってない | • 困った経験が少ない |
| • 助けてもらっていた | • グループで解決 |
| • 誰かが処理してきた | • 自信がない |
| • 信頼関係不足、愛情不足 | • 言葉を知らない • 体験不足 |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | | |
|--------|-----------|
| • 体験不足 | • 言葉を知らない |
|--------|-----------|

「必要だと考える環境」

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| • 新しい体験を増やす | • 発達に応じた言葉の使用 |
| • 「分かりません」「できません」が使える環境であることを知る。 | |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○理解しているか、していないのかを意思表示できる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する こと	(1)情緒の安定に 関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に 関すること	(1)保有する感覚の 活用に関する こと ○	(1)姿勢と運動・ 動作の基本的 技能に関する こと	(1)コミュニケー ションの基礎 的能力に関する こと ○
	(2)病気の理解と 生活管理に関する こと	(2)状況の理解と 変化への対応に 関すること	(2)他者の意図や 感情の理解に 関すること	(2)感覚や認知の 特性について の理解と対応 に関する こと ○	(2)姿勢保持と運 動・動作の補 助手段の活 用に関する こと	(2)言語の受容と 表出に関する こと ○
	(3)身体各部の状 態の理解と養 護に関する こと	(3)障害による学 習上又は生活上 の困難を改善・ 克服する意欲に 関すること	(3)自己の理解と 行動の調整に 関すること	(3)感覚の補加及 び代替手段の 活用に関する こと	(3)日常生活に必 要な基本的動 作に関する こと	(3)言語の形成と 活用に関する こと ○
	(4)障害の特性の 理解と生活習 慣の調整に関 すること		(4)集団への参加 の基礎に関する こと	(4)感覚を総合的 に活用した周 囲の状況につ いての把握と 状況に応じた 行動に関する こと	(4)身体の種類能 力に関する こと	(4)コミュニケー ション手段の 選択と活用に関 すること
	(5)健康状態の維 持改善に関す ること			(5)認知や行動の 手掛かりとな る概念の形成 に関する こと ○	(5)作業に必要な 動作と円滑な 遂行に関する こと	(5)状況に応じた コミュニケーションに 関すること

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	作業学習	学級（給食時）	
指導内容 (目指す姿)	・わからないときに手を挙げ ることができる。	・促されずに自ら食器類を運 ぶことができる。	

指導方法 (手立て)	・他の生徒とは違う「手を挙げる」という指示を出すことで意識して意思表示をすることを目的とする。(他の生徒は、担当者へ直接確認する指導をしている)	・行動が停滞している時に、自ら気付けるような間接的な言葉掛けを行う。 ・全員の役割が完了した時点での報告の係にする。(報告がない限り、給食が進まない状態)	
---------------	--	--	--

(4) 指導の結果

- ・報告の係を頼むと、快く引き受けてくれた。最初の二回は、食缶などを運ぶ作業を始める直前に、「係の仕事を頼みます」と言葉掛けをした。それ以降は、自主的に報告するようになった。
- ・下校時に「さよなら～」といいながら両手を振ると、鏡のように笑顔で両手を振って返ってくる。
- ・最近、朝から登校する機会が増えてきている。また、体育の授業で跳び箱を行っているが、五段を「飛べなかった」報告を担当にすることがあった。余談や何気ない会話を自分からするタイプではなかったがこのような行動を示すことがあった。
- ・学校祭のハンドベルの演奏で自分のパートに一生懸命取り組む姿があった。

(5) まとめ

○成果

- ・今回の研究という取り組みの効果ではないが、先ずは、登校できているという状況で良い状況を維持できているといえる。
- ・学校祭では、ハンドベルを担当したが「楽しかった」という感想を持てた。
- ・すれ違った時などの何気ない挨拶が自然にできている。
- ・具体的な内容で会話できるようになっている。
- ・作業学習では、教師側がブレずに繰り返し指導をすることで、良い反応が見られるようになった。

○課題

- ・発言を繰り返すことで緊張が和らぎ自主性は育つが、語彙が少ないため発言できる言葉が限られてしまう。現在の指導方法を継続しながら、本人の考えや感情をラベリングして語彙を増やす指導を徐々に加えていきたい。

NO.3

感情の表現に課題のある生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | | |
|----------------|----------|----------|
| ・ 友達のために動ける | ・ 慎重、丁寧 | ・ 挨拶ができる |
| ・ 自分の気持ちを伝えられる | ・ 努力家 | ・ あきらめない |
| ・ コツコツやる | ・ 文字がきれい | |

② 課題

- | |
|------------|
| ・ 自分を見てほしい |
| ・ 時間配分が苦手 |
| ・ マイペース |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | | |
|-------------|-----------|
| ・ 間違いや失敗が怖い | ・ 自己理解の不足 |
|-------------|-----------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|--------------|------------|
| ・ コンプレックス | ・ 認めてほしい |
| ・ 自分を見ていてほしい | ・ 自己肯定感が低い |
| ・ 完璧主義 | |
| ・ うまくできない | |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | | |
|----------|----------|
| ・ マイナス思考 | ・ 他人との比較 |
|----------|----------|

「必要だと考える環境」

- | | |
|------------|------------|
| ・ 一人でいる勇氣 | ・ 人との付き合い方 |
| ・ 曖昧なことが苦手 | ・ 不機嫌が顔に出る |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○誰かと比べるのではなく、自分は自分であるということを理解し生活を送ることができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する こと	○ (1)情緒の安定に関する こと	○ (1)他者とのかかわりの基礎に関する こと	(1)保有する感覚の活用に関する こと	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する こと	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する こと
	(2)病気の状態の理解と生活管理に関する こと	(2)状況の理解と変化への対応に関する こと	(2)他者の意図や感情の理解に関する こと	(2)感覚や認知特性について の理解と対応に関する こと	(2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する こと	(2)言語の受容と表出に関する こと
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する こと	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する こと	○ (3)自己の理解と行動の調整に関する こと	(3)感覚の補及び代用手段の活用に関する こと	(3)日常生活に必要な基本動作に関する こと	(3)言語の形成と活用に関する こと
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関する こと		(4)集団への参加の基礎に関する こと	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する こと	(4)身体の種類能力に関する こと	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する こと
	(5)健康状態の維持・改善に関する こと			(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する こと	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する こと	○ (5)状況に応じたコミュニケーションに関する こと

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	クラス（給食、その他）	作業学習	LHR・職業など
指導内容 (目指す姿)	・他者との関わりの基礎に関する こと。 ・自分の気持ちに気付く		○状況に応じたコミュニケーションに関する こと

指導方法 (手立て)	・面談の時間などを活用して振り返りの時間を設ける。 - 共通 ・負の気持ちをもったときにノートに書く。 ・イラストとシールを貼り、自己の振り返り時に役立てる。 ・なるべく1対1での指導、注意を行う。	・日誌や反省の時に繰り返し振り返る。 ・知識では応えることができるが、実際の場面とLINKしないので、作業やクラスと連携できるとよい。	・心理士の方が作った資料を活用する。
---------------	---	--	--

(4) 指導の結果

- ・美術の授業では、制作に必要な時間配分を考えるよう伝えと同時に、周りの生徒の進捗状況を気にすることなく、課題をやり遂げることや真剣に取り組む姿勢が素晴らしいことだと毎時間伝えた。最近、制作した作品に対して、マイナスな発言は減ってきている。
- ・不安定な時期なので、大勢の前で個々の指導をすることを避け、別の場所で個別に指導することで不安要素を取り除いている。
- ・学校祭準備で自分の得意とする分野での役割（舞台班、主人公 台詞盛りだくさん）にあたり、気分は悪くないと思われる。初めてグループごとに分かれたその日に夜中3時までシナリオを読み返している模様。この場面で負の気持ちは表れていない。
- ・学級で「話を聞く」対応をしている。まだ、様子見が必要であるが、良い状況も見られるものの、何かの出来事を切っ掛けに「悩めるモード」突入することもある。今後、学校祭、生徒会選挙等のイベントを通して見守りが必要
- ・体育で跳び箱の試験をした時に強い緊張を見せていた。

(5) まとめ

○成果と課題

- ・頑張る姿を見せていたが、それが苦しそうに写る。
- ・今回は主役であったが、脇役でも自分らしさを表現できる視野の広さを期待したい。大人受けする仕草を意識している。
- ・10月より作業学習のリーダーにしている。周りの動きを見ながら他者との関わり方を考えているようであるが、根本的には、自分がしたいこと（自分の思い）が優先され、形式的な気遣いになっている。
- ・自分に自信を持てるように「チャレンジ→成功」の経験をさせたいが、どんなに成功を積み上げても、一つの失敗や、一つの思惑とのズレなどで負の感情を表すと思われる。

NO.4

自分の意見を伝えることに課題のある生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- ・笑顔で挨拶ができる。
- ・時間に遅れない。
- ・周りを見て手伝いなどができる。
- ・友達思い。
- ・指示に従って行動できる。

② 課題

- ・経験が少ない(努力→達成)
- ・自信がない
- ・周りの評価を受け入れることができない
- ・自分から話しかけるのに時間がかかる
- ・思ったことをそのまま言葉にしてしまう
- ・自分の意見が言えない
- ・周囲の使う言葉を間違えて覚えている
- ・家庭の協力がいない

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- ・自分の意見が言える
- ・素直に話が聞ける

② 想定される課題の原因・背景

- ・自信がない
- ・経験が少ない
- ・話し合う機会が少ない
- ・人間関係の希薄
- ・信頼関係の構築の場が少ない
- ・語句の学習の不足
- ・親の無関心

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- ・自分の意見が言える
- ・素直に話が聞ける

「必要だと考える環境」

- ・個の役割の設定
- ・やらなければいけない場面の設定
- ・発言しやすい環境
- ・わいわいできる友達との環境
- ・役割を与えて、それを果たす

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

- 相手を思いやる
○自分の意思を伝えることができる。
○他者の意見を積極的に受け入れる・聞くことができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1)情緒の安定に関する事	○ (1)他者とのかかわりの基礎に関する事	(1)保有する感覚の活用に関する事	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	○ (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	(2)病状の状態の理解と生活管理に関する事	○ (2)状況の理解と変化への対応に関する事	○ (2)他者の意図や感情の理解に関する事	(2)感覚や認知特性についての理解と対応に関する事	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	○ (2)言語の受容と表出に関する事
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3)自己の理解と行動の調整に関する事	(3)感覚の補及び代用手段の活用に関する事	(3)日常生活に必要な基本的動作に関する事	(3)言語の形成と活用に関する事
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関する事		(4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4)身体の種類能力に関する事	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	(5)健康状態の維持改善に関する事			(5)認識や運動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	授業	行事	部活動（バドミントン）
指導内容 (目指す姿)	×話し合いの場面で自分の意見を言える。 ○自分の思いを行動に移す。 ○今までの経験を生かしより良い方法を見つける。		○自分の思いを行動に移す。

指導方法 (手立て)	・話し合い、発表の場面を作る。 ・伝え方・表出方法を全体周知する。 ・教師が手本になる。 ・うまく出来ている人を褒める。 (現状ではマネができるため)	気づきがあれば 気づいて欲しい。	手伝う時に「手伝った方がいい？」と確認出来ると良い。 (やりすぎることも・・・ ・・・余計なお世話に)
---------------	---	-----------------------------	--

(4) 指導の結果

- ・一番に挙手することは少ないが、自分から挙手できるようになってきた
- ・授業内容を理解できると、積極的に参加することができている
- ・数学の授業の中で、自分から挙手することがあった（自信なさそうに挙手）
→周りが困っている問題、自分はできた問題、メンバーにも慣れてきた
- ・学校祭普通科の集団で、話し合い活動があり、自分から言葉を掛けたり、輪に入ったりする様子が増えてきた
- ・平塚から小木曽の名前を呼び、あいさつすることで少し雰囲気が良くなってきた
- ・パフォーマンスGでは、リーダーを勤めていた友達が欠席したときに、積極的に周りに言葉を掛けて練習に取り組んでいた（周りができないと思って？自分がやるしかない？）

(5) まとめ

○成果

- ・自分発信の行動が増えている。

○課題

- ・「お世話」をしてしまうが、まずは自分のことをやるべき（目標には合っているから成果？）
- ・分かっているようで、分かっていないことがある
- ・数学では、周囲が積極的なため、積極的にいくことは少ない
- ・大きな集団よりも小さな集団、さらに慣れている人だと行きやすい
- ・社交的だが、急に関わりが薄くなることも
- ・苦手な人間との関わり方に課題

断片的に改善の傾向が見られるが、彼女にとっての得意不得手により、理想とされる所作が見え隠れする。彼女を取り巻く環境と彼女の置かれている立場や状況により行動に変化が生じる。環境の設定は、彼女の行動に大きく影響を与えると思われる。

NO.5

気持ちの乱れがすぐ言動に出てしまう生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | |
|--------------|---------------|
| • 発言力ある | • 気遣いや心遣いができる |
| • まじめ | • 優しい |
| • 自分で考えて行動する | |

② 課題

- | | |
|--------------|-----------------|
| • 集中力が続かない | • 向上心が薄い |
| • 苦手なことには消極的 | • 感情のコントロールが難しい |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | | | |
|----------|--------|-------------|
| • 他者の関わり | • 自己受容 | • 感情のコントロール |
|----------|--------|-------------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|----------|---------------|
| • 感情 | • 認められなかった |
| • 経験不足 | • 自分ルール |
| • 不安が強い | • 褒められた経験がない？ |
| • 信頼関係不足 | • 通常学級 |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | | |
|--------|--------------------|
| • 自己受容 | • 思考力、理解力、認知する力の不足 |
|--------|--------------------|

「必要だと考える環境」

- | | |
|---------------|-------------------|
| • 自己理解する場面の設定 | • やらなければいけない場面の設定 |
| • 役割の設定 | |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○自分の振る舞いや発言を振り返り、良い悪いの判断や改善策などを考え、行動することができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する こと	○ (1)情緒の安定に関する こと	○ (1)他者とのかわりの基礎に関する こと	(1)保有する感覚の活用に関する こと	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する こと	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する こと
	(2)病状の理解と生活管理に関する こと	(2)状況の理解と変化への対応に関する こと	○ (2)他者の意図や感情の理解に関する こと	○ (2)感覚や認知特性についての理解と対応に関する こと	(2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する こと	(2)言語の受容と表出に関する こと
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する こと	○ (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する こと	○ (3)自己の理解と行動の調整に関する こと	(3)感覚の補及び代用手段の活用に関する こと	(3)日常生活に必要な基本動作に関する こと	(3)言語の形成と活用に関する こと
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関する こと		(4)集団への参加の基礎に関する こと	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する こと	(4)身体の種類能力に関する こと	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する こと
	(5)健康状態の維持改善に関する こと			(5)認識や運動の手掛かりとなる概念の形成に関する こと	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する こと	○ (5)状況に応じたコミュニケーションに関する こと

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	LHR（学級・学年）、 部活動、委員会	総合、社会生活、職業	行事（学校祭）
指導内容 (目指す姿)	・振り返り場面において、自己の心情を適切に振り返ることができる、よりよい言動について考えることができる。	・役割に合った振る舞いや発言をすることができる。 ・教師からの働き掛けを受けて自分の行動を振り返り、適切な行動をとることができる。	・自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。

指導方法に (手立て)	・コミュニケーションに関わる題材を用意し、適切なコミュニケーションの方法やTPOに応じたコミュニケーションの方法について理解を深める。(主に学級全体指導、社会生活) ・定期面談を通し、相談や質問しやすい雰囲気づくりや、教師の助言を聞けるような信頼関係づくりに努める。(主に個別指導、LHR等)	・本人の良さや力を発揮できるような役割の設定やグルーピングを工夫する。 ・明確な役割がない場合であっても、活動の中で本人に求められていることや期待していることなどを伝える。 ・良い行動について、積極的にフィードバックし本人に自覚させる。 ・適切ではない振る舞いや発言について、どのような行動をとっていたらよかったかを本人に考えさせる。(状況によっては、教師と一緒に考える)	・友達と協力できるような活動を設定する。 ・目的達成までのプロセスを確認する。
----------------	---	---	--

(4) 指導の結果

- ・終日作業では、周りの友達が不適切な発言や態度をとっているときは、「ああいう態度は良くない。」と言いながら、嫌な顔をしたり注意したりする様子が見られた。しかし、同じような振る舞いを自分自身がしていることも多々あり、それには気付いていないようだった。
- ・印象の良い挨拶をするようになった。
- ・メモを活用するようになった。
- ・発言の途中で正しい言葉遣いで言い直す場面が増えた。
- ・「何個も考えることが増えるといっぱいいっぱいになり、頭がパンクする」と教師に話してきた。
- ・常にポケットにメモ帳をいれて、連絡事項を忘れないように書いていた。
- ・やること、やりたいこと、自分ができると、人の手を借りないとできないことの整理ができず、優先順位を間違えることがあった。
- ・現場実習前のグループワーク(清掃活動)では、自ら清掃箇所を提案し、その役割を担った。最後まで責任をもってやり遂げている。その時々のグループの中で、自分がどう振る舞えば集団が良くなるかを考え行動する場面が増えている。
- ・校内実習時、課せられた活動に対して真剣に取り組みアドバイスをものすごく素直に受け入れ場面もあった。しかし、疲れがたまってくると気持ちのコンディションが乱れている様子があったが、それを本人は自覚しながらも不適切な行動をとらないように(集団の中で適切な行動を選択するように)していたと感じる。後日、当時の自分の状態についても冷静に話すことができていた。
- ・学校祭では、ダンス練習でリーダーシップをとって発表をまとめていた。また、学校祭実行委員に自ら立候補して副リーダーになった。頑張る気持ちは伝わるが、そのやる気が空回りしてしまうこともあった。
- ・学校祭後、バーンアウトのような状態かなあ?という様子が見られた。学校祭の頑張りが学校生活に生かされていない。

(5) まとめ

○成果

- ・はじめは言葉遣い乱暴、感情の起伏は激しいこともあった。面談、アセスメントをすることで、実態の理解が深まった。(適切な言葉掛け、学習内容など)
- ・教師側の共通理解が深まったことで、各学習活動では見通しをもって取り組めるようになった。

- 学校祭を通して、役割を果たすことで成長、本人の自信に繋がった。
- Sさんとの関係性では、一定の距離感を保つことができ、自分は自分として取り組むことができるようになった。
- 感情の起伏が減り、穏やかになった。
- 先生に対しての不信感があり、心を閉じている様子があったが、少しずつ減ってきた。

○課題

- 自信を付ける。一方でよくない自信の付け方をしないように。
- コミュニケーション力
- さらに安定して学習に臨む。
- メリハリ
- 面談をどのように定期的に実施していくか。
- 自己理解
- 周りの影響を受けやすい。(優しいと甘える)
- 自立への気持ち。

NO.6

経験が少なく、何事にも自信がない生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | |
|-----------------|-------------------|
| • 任されたことは確実にこなす | • 気遣いや心遣いができる |
| • 登校が安定している | • 優しい |
| • 友達と有効的に関われる | • 人の悪口を言わず、バカにしない |

② 課題

- | | |
|----------------|----------------------------|
| • 周りの雰囲気の流れやすい | • 「分からない」、「困った」など、自分から言わない |
| • 苦手なことには消極的 | • 面倒くさがる |
| • 臨機応変な対応が苦手 | • 人への依存度が高い |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | | |
|-------|-----------|
| • 主体性 | • 人間関係の形成 |
|-------|-----------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|---------------------|---------------------|
| • 自己決定の機会が少ない | • 中学時代、不登校 |
| • 経験不足、自信がない | • 友人関係を築いた経験したが少ない |
| • 「嫌われたくない」という思いが強い | • 遊んだり喧嘩したりした経験がない |
| • 不安が強い | • 褒められた経験がない？ |
| • 信頼関係不足、愛情不足 | • 「できた」「分かった」の経験の不足 |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | | |
|-------|-----------|
| • 主体性 | • 人間関係の形成 |
|-------|-----------|

「必要だと考える環境」

- | | |
|-----------------|-------------------|
| • 個の役割の設定 | • やらなければいけない場面の設定 |
| • わいわいできる友達との環境 | • 役割を与えて、それを果たす |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○学級や学年の活動の中で、自分の役割を理解し、その責任を果たすことができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1)情緒の安定に関する事	(1)他者とのかかわりの基礎に関する事	(1)保有する感覚の活用に関する事	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	○ (2)状況の理解と変化への対応に関する事	○ (2)他者の意図や感情の理解に関する事	○ (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2)言語の受容と表出に関する事
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	○ (3)自己の理解と行動の調整に関する事	(3)感覚の補及び代用手段の活用に関する事	(3)日常生活に必要な基本動作に関する事	(3)言語の形成と活用に関する事
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関する事		(4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4)身体の種類能力に関する事	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	(5)健康状態の維持改善に関する事			(5)認識や運動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	LHR（学級・学年）、 部活動、委員会	総合、社会生活、職業	行事（学校祭）
指導内容 (目指す姿)	- 自分の役割が分かり、最後までやり遂げる。 - 様々な役割があることで、集団が成り立っていることを知る。	- いろいろな人の見方や考え方を知るとともに、自分の考えをもつ。 - 与えられた課題や問題を解決する。	自分自身や所属するグループの目的を達成することで、達成感を味わう。

指導方法 (手立て)	・個の仕事（部活であれば副部長独自の仕事）を設定する。 ・決定権を与える。 ・誰がどのように役割を担当しているかなど、全体像を理解できるよう図を使うなどして説明する。	・解決するための手段について、友達の方法を参考に促したり、助言したりする。 ・活動後に、適宜振り返りを行う。 ・普段関わっていない人と関わる機会を設定する。	・友達と協力できるような活動を設定する。 ・目的達成までのプロセスを確認する。
---------------	---	--	--

（４）指導の結果

- ・学級の係活動では、毎日の時間割を変える担当になった。帰りの会の後に行う仕事のため、周りの友達に流されて仕事をしないで帰ることもあったが、何度か注意を受けてからは忘れずに取り組むようになった。怒られるのか嫌だからという感じもあるかもしれない。
- ・自分の課題と向き合い、今後の生活、現場実習に生かしたいという振り返りを行うことができた。
- ・昼休みの４組教室で、教師が「誰か手伝って～」と給食の食缶の片付けを声かけした。ちょうど４組に遊びにきたところの本生徒が、ササッと何も言わずに食缶を運んでくれた。
- ・時間内に終わらなかった仕事を休み時間にやるなど、責任を持って仕事に取り組んでいる様子が見られる。
- ・さりげなく友達をフォローしたり、全体を客観的に見ていたりする。
- ・5W1Hの問題かうまく説明ができない時がある。
- ・現場実習では、自分にノルマを課しながら働く姿が見られた。作業も手際よく取り組んでいた。休憩中の職場の方々とのコミュニケーションも問題なくとれていた。母からは、情緒不安定な感じで布団の中で泣いていた日があった。理由も聞いても言わかった。朝も顔色も悪く、様子もおかしいが出勤していった。
- ・自分で思ったことを発表する場面が何度か見られた。
- ・少人数のグループでは、積極的に行動できている。
- ・学年の学祭練習では、しっかりやらないクラスメイトに対して注意をしたり、担任に知らせてくれたりして、学祭を成功させたいという思いを感じた。話し合いの場面で口火を切ったり、進行役を進んで行ったりしていた。
- ・学校祭学年実行委員になったことで、「メモをとる勉強になる。」「このチャンスを生かしたい。」など、前向きな発言があった。実行委員の話し合いでは、実際にメモをとったり、次回の打ち合わせの日程を自分から確認したりすることができた。
- ・学校祭から非常に変わった。（準備中から大きな変化有）周囲の気配り、状況判断など何をとっても素晴らしい。

（５）まとめ

○成果

- ・目標設定が適切であり、必要な手立てを用いることができ、成長に繋がった。
- ・学校祭を通して成長、自信に繋がった（集団の中での振る舞い）。
- ・主体的に行動する場面が増えた。
- ・自己理解が進んできた。
- ・意欲的、主体的にとりくむ場面が増えてきた。
- ・表情がよく、指示を聞けるようになってきた。

○課題

- ・情緒面（ストレスの発散方法、コントロールの方法）
- ・本人の気持ちが伝えることができる環境設定。
- ・次のステップ、指導の検討。
- ・「働き続ける」ことを見据えた指導。

NO.7

適切な振舞い等に課題のある生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | |
|-----------------|----------------------|
| • 任されたことは確実にこなす | • 手先が器用 |
| • 興味あることは頑張れる | • 優しい |
| • 友達と有効的に関われる | • 視覚的な情報の方が得意（ゲームなど） |

② 課題

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| • 周りの雰囲気流されやすい | • 思ったことを場面を考えずに言うてしまう |
| • 思っていることを伝えるのが苦手 | • 面倒くさがる |
| • 緊張すると腹痛になる | • 特定の友達と一緒に過ごす |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | | |
|---------------|------------------|
| • けじめをつけるのが苦手 | • 周りの環境に影響を受けやすい |
|---------------|------------------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|----------------------|---------------------|
| • 場に合わせたとるべき態度がわからない | • 生活乱れ（ゲームばかり） |
| • 周りの人が気になる足 | • 自信がない |
| • 不安が強い | • 認められた経験が少ない |
| • 愛情不足 | • 失敗したくない、責任を取りたくない |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | |
|-----------------|
| • 場に合わせた態度が取れない |
|-----------------|

「必要だと考える環境」

- | | | |
|--------------|--------------|------------------|
| • 振り返る時間を作る。 | • 集中できる課題を準備 | • 環境を整える(少人数) |
| • 成功体験を増やす。 | • 見通しを持たせる。 | • 自分の仕事に責任を持たせる。 |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○場に合わせた言葉遣いができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する こと	(1)情緒の安定に 関すること	○ (1)他者とのかかわりの基礎に 関すること	(1)保有する感覚の活用に関する こと	(1)姿勢と運動・動作の基本的 技能に関する こと	(1)コミュニケーションの基礎 的能力に関する こと
	(2)病状の理解と生活管理に関する こと	○ (2)状況の理解と変化への対応に 関すること	○ (2)他者の意図や感情の理解に 関すること	○ (2)感覚や認知の特性について の理解と対応に 関すること	(2)姿勢保持と運動・動作の補 助的手段の活 用に関する こと	(2)言語の受容と 表出に関する こと
	(3)身体各部の状態の理解と養 護に関する こと	(3)障害による学 習上又は生活上 の困難を改善・ 克服する意欲に 関すること	(3)自己の理解と 行動の調整に 関すること	(3)感覚の補及び代 り手段の活 用に関する こと	(3)日常生活に必 要な基本動作 に関する こと	○ (3)言語の形成と 活用に関する こと
	(4)障害の特性の 理解と生活習 慣の調整に関 すること		(4)集団への参加 の基礎に 関すること	(4)感覚を総合的に 活用した周囲 の状況につ いての把握と 状況に応じた 行動に関する こと	(4)身体の種類 能力に関する こと	(4)コミュニケーション手段の 選択と活用に 関すること
	(5)健康状態の維 持・改善に関 すること			(5)認知や行動の 手掛かりとな る概念の形成 に関する こと	(5)作業に必要な 動作と円滑な 遂行に関する こと	(5)状況に応じた コミュニケーションに 関すること

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	作業学習など	SHR、LHR など (学級)	他の授業、休み時 間など	行事（学校祭）
指導内容 (目指す姿)	・大きな声(適切な 声)で報告、連絡、相 談など	・適切な言葉遣い ・他者に対しての 伝え方	・適切な言葉遣い ・他者に対して の伝え方	・適切な言葉遣い ・他者に対しての 伝え方

指導方法 (手立て)	- 大きな声(適切な声)で報告、連絡、相談などができたときは、その都度ほめる。(個別、全体) - 発言の仕方や言葉の使い方など具体的に示す。	- 発言する場面を設定する。 - 適切な言葉で発言できたときには、その都度ほめる。 - 発言の仕方や言葉の使い方など具体的に示す。	- 発言しやすい場面を設定する。 - 発言の仕方や言葉の使い方など具体的に示す。 - 授業だけでなく、休み時間などに教室や廊下などでもコミュニケーションをとる。	- 発言しやすい場面を設定する。 - 発言の仕方や言葉の使い方など具体的に示す。
---------------	---	---	--	---

(4) 指導の結果

- 少し頑張らないとできないような課題を任せると、適切な言葉や振る舞いで教師に相談しながら練習に取り組むことができた。
- 一人で課題に取り組む場面や、授業中に調べた内容を自発的に発言する場面では適切な言葉遣いをする事ができた。
- 特定の教師に会うと自ら話しかけるようになった。
- わからないことを何度も質問し、一つ一つ解決することができた。その際、見本を見せることで学ぶことが多い様子(視覚的に学んでいる)
- 注意されたことを繰り返さないようになってきた。(姿勢、悪口等)
- 部活動を休む時の連絡を教師が何度か示すと、自分から休むことを時勢つな言葉で教師に伝えられるようになった。
- 一人だとできるが、他の生徒がいると「だるい」「つかれた」「めんどろさい」等という場面が多い。
- 現場実習中は、一人で校内実習を行った。一人だと本当に疲れたとき以外、「疲れた」とは言わなかった。集中して黙々と作業に取り組んでいた。集中もスピードも他の生徒がいるときより格段に良かった。

(まとめ)

○成果

- 作業学習や現場実習期間を通して自信がついてきた。
- 教師側が、生徒の実態の理解が進んだことで、場に応じた行動や発言が見られた。
- 個別で自分の意見を話すことができてきた。
- 1年生の時は、椅子に座る態度や話を聞く態度が悪かったが、少しずつ変わってきた。
- 関係性を築くことで教師指示を受け入れることができた。
- 意欲的に取り組む場面が増え、周りの生徒へ良い影響がでてきた。

○課題

- 語彙力の弱さ(相手が不快にならないような語彙など)などから考えられる、自信のなさ。
- 周囲の環境に流されやすいため適切な学習環境の検討(自分の意見を発信できる、学習グループ等)

NO.8

コミュニケーション（受け取り方、伝える等）に課題がある生徒

（１）実態の整理

① よさ

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| • 働くことに対して前向きな気持ちを持っている | • 気遣いや心遣いができる |
| • 信頼できる人に自分の気持ちを伝えることができる | • ルールやマナーを意識できる |
| • ほめられると頑張れる | |

② 課題

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| • 慣れるまでに時間がかかる | • 困ったことなどを自分から言わない |
| • 集団が好きではない | • 人に認められたいと思う気持ちが強くうそを言うことがある |
| • 臨機応変な対応が苦手 | • 苦手の相手に対しても心をシャットアウトしてしまう |

（２）指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | |
|-------------------|
| • 情報や思考整理に時間がかかる。 |
|-------------------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|---------------|----------------------|
| • 人とのかかわりが少ない | • 国語力が少ない |
| • 経験不足 | • 成育歴 |
| • 不安が強い | • 褒められた経験がすくない |
| • 信頼関係不足、愛情不足 | • メモリーが情報の整理ができないのでは |

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | | |
|-------|-----------|
| • 主体性 | • 人間関係の形成 |
|-------|-----------|

「必要だと考える環境」

- | | |
|-----------------|-------------------|
| • 個の役割の設定 | • やらなければいけない場面の設定 |
| • わいわいできる友達との環境 | • 役割を与えて、それを果たす |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○自分の気持ちを表出することができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する こと	○ (1)情緒の安定に関する こと	○ (1)他者とのかわりの基礎に関する こと	(1)保有する感覚の活用に関する こと	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する こと	○ (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する こと
	(2)病状の理解と生活管理に関する こと	(2)状況の理解と変化への対応に関する こと	(2)他者の意図や感情の理解に関する こと	(2)感覚や認知特性についての理解と対応に関する こと	(2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する こと	(2)言語の受容と表出に関する こと
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する こと	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する こと	(3)自己の理解と行動の調整に関する こと	(3)感覚の補及び代用手段の活用に関する こと	(3)日常生活に必要な基本的動作に関する こと	(3)言語の形成と活用に関する こと
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関する こと		○ (4)集団への参加の基礎に関する こと	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する こと	(4)身体の種類能力に関する こと	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する こと
	(5)健康状態の維持改善に関する こと			(5)認識や運動の手掛かりとなる概念の形成に関する こと	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する こと	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する こと

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	学級、作業学習、体育など
指導内容 (目指す姿)	特定の人に自分の気持ちを話すことができる。
指導方法 (手立て)	・嬉しそうなときに話しかける。(共有、共感する) ・喜怒哀楽を記入するやりとり。(表情のマークで表現、単語で記入など) →1週間ふりかえるなど ・成功体験を重ねる。 ・本人に声をたくさん掛ける。(※本人からの受け答えがなくても)

（４）指導の結果

- ・相手の表情や気分に関係なく、話し掛けた結果。しっかりと反応もよく、聞いていること以上に話をすることがあった。
- ・関わりの少ない教員（女性）からの問いかけに答えることができた。
- ・特定の教員に対して、自分の気持ちを伝えることができた。
- ・登校できていない日が多く、十分に手立てにあげた取り組みを行うことができていない。
- ・自信のあること（運動、介護に関する事など）や、嫌いな人の話など、本人の思いが強くあらわれている事柄については、積極的に思いを伝えることができた。しかし、その内容に対して、本人にとって否定的な内容（例えば、本人よりも他の人をほめる、本人の嫌いな人を肯定する発言をするなど）があると、「わかってくれなかった」という発想になってしまう。
- ・ほめられると、とても喜ぶ。他者が言っていたことを間接的に伝えても、うれしそうな表情を見せてくれるが、その他者は、本人が心を許している人に限る。

（５）まとめ

○成果

- ・登校も安定せず、実践できていない部分もあるが、学校祭で本人の思いを紙面などで確認、やりとりすることで、担任に対して自分から思いを発信したり、指示を聞いたりすることができる場面が増えてきた。
- ・学年全体の教師で、本人の実態や生育歴などの共通理解が進んだ。
- ・キーパーソンである友人（Nさん）の安定が学級、本人へのよりよい影響あることが分かった。
- ・学級の指導の方向性を示すことで、指導を共通理解しながら進めることができた。

○課題

- ・今後も学年で指導の共通理解を進めていく。
- ・気持ちの切り替え。
- ・理解、受け取り方の偏りがあることから、本人の考え、理解を整理していく。
- ・保護者との関わり。

NO.9

向上心はあるが、心の声がもれてしまうことに課題のある生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| ・体調が安定している | ・時々優しい行動をする |
| ・遅刻、欠席が少ない | ・時々人を思いやる行動ができる |
| ・根は良い子（親の愛情を受けて育ってきた） | ・本当は自分で色々考える力がある |
| ・個別指導には素直に従うことができる | ・女性や自分よりできることが少ない人に優しい |
| ・たまに素直ですっきりとした表情をする | ・時事ネタに詳しい |
| ・興味のあることには熱心に取り組む | ・頑張り屋（高校認定） |
| ・決めたことはちゃんとやる（期間は短い） | ・意見をボソッと言うことができる |
| ・信頼されていることはしっかり取り組むことができる | |
| ・聞いていないようで話をしっかり理解していて自分の役割を果たす | |
| ・出来ないことや失敗しても後ろ向きにならないところ | |

② 課題

- | | |
|--|-----------------------|
| ・嫌な雰囲気を出す | ・ボソッと一言 |
| ・チツと言う | ・あいさと、返事など自分からしない |
| ・態度が悪い | ・授業をきちんと聞いていない |
| ・やる気ないように見えてしまう表情 | ・宿題をしてこなかったため発表できなかった |
| ・忘れ物（提出物、ハンカチ）が多い | |
| ・周りの人が不快になるようなマイナスな物事のとらえを声に出す | |
| ・ブツブツと人が嫌な思いをさせる独り言を言う・自分の課題や人に言われたことを受容できない | |
| ・職業学科の生徒を見下している（ばかにする発言をする） | |
| ・興味のないことに対してやる気がない | ・欲求が勝ってしまってコントロールが苦手 |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | | |
|--------|--------|
| ・態度が悪い | ・体の使い方 |
|--------|--------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| ・言葉で周りの人に返せない | ・表情が少ない（笑顔が少ない） |
| ・注意されることに弱い | ・しゃべるのが苦手だから関わりたくない |
| ・単純に素直じゃない反抗心 | ・人のせいにする（人の悪口・自分に自信がない） |
| ・態度悪い＝カッコいい | ・本当はまじめにやりたいと思っているが恥ずかしい |
| ・注意される環境になかった | ・周りへの言葉の出し方を知らない |
| ・できないことを求められていた | ・普通学級出身だから |
| ・別にこまっていない | ・友達がいないから独り言を言う |
| | ・体を動かすことに興味がない |

- ・ボディーイメージがなっていない
- ・障害の程度
- ・筋力がない、体力がない
- ・周りのせいにしている
- ・かっこつきたいから（かっこ悪いことはしたくない）
- ・周りの目を気にしている
- ・父性不足
- ・周りの輪に入れない
- ・関わりたいがどのように話しかければよいか学んでこなかった
- ・元気で体を使ったコミュニケーションについていけずぼそつと言うしかない
- ・気持ち的に「まいいや」「これでいいや」と正当化する面がある
- ・できないことを隠したくて一生懸命しないようにしている
- ・元気よさ、さわがしさに嫌な思いがあり「活発的なやつ」になるつもりがない

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- ・自己理解不足
- ・経験の少なさ

「必要だと考える環境」

- | | |
|----------------------|------------------|
| ・運動の経験（外での活動） | ・手指の動きの強化 |
| ・作業学習などの継続 | ・機能訓練（身体） |
| ・色々な運動を経験できる場所、時間 | ・自分の課題、目標はもっていない |
| ・活動の様子を客観的に見る | ・チームで活動 |
| ・なんでも話してくれる人 | ・自己分析と他社評価 |
| ・グループワークでSST | ・信頼できる友達 |
| ・コミュニケーションの取り方を身に付ける | ・安心して甘えられる人 |

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

- 社会人にふさわしい言動をする。（個別の指導計画の自立活動の目標）
○自分のことを理解する。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1)情緒の安定に関する事	○ (1)他者とのかかわりの基礎に関する事	○ (1)保有する感覚の活用に関する事	○ (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	○ (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	(2)病状の理解と生活管理に関する事	(2)状況の理解と変化への対応に関する事	○ (2)他者の意図や感情の理解に関する事	○ (2)感覚や認知特性についての理解と対応に関する事	(2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	○ (2)言語の受容と表出に関する事
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	○ (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	○ (3)自己の理解と行動の調整に関する事	(3)感覚の補及び代用手段の活用に関する事	(3)日常生活に必要な基本的動作に関する事	○ (3)言語の形成と活用に関する事
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関する事		○ (4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4)身体の種類能力に関する事	○ (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	(5)健康状態の維持・改善に関する事			(5)認知や運動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	○ (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	総合	体育	教科（社会など）
指導内容 (目指す姿)	自分の立場が分かる	得意なことを増やす 自信をつける	できることとできないことが分かる

指導方法 (手立て)	苦手なことが多い生徒に優しく声をかける様子が見られてきたので、継続してグループ活動を行い、人との関わり方を学べるようにする。適宜、グループのメンバーを変えて、立場や正しい関わり方を学べるようにする。	得意な競技（リレー）のときは、グループ活動で文句を言うことなく、グループのメンバーと話し合いながら行えた。苦手な競技（球技）では、文句を言っていることが多い。本人が得意そうな活動のときにリーダーなどの役割を与え、できたことを称賛し、できた経験を増やす。	大学進学や高卒認定をするための学習の内容がどの程度か伝え、学ぶ機会を提供する。 興味のない学習は寝ることが多いが、興味のある学習（タブレットで調べる）は意欲的であるため、学習内容の工夫を行う。
---------------	---	--	---

（４）指導の結果

- ・総合では、グループで活動することで、自分の立場がわかるようになってきた。また、困っている人を助ける様子が見られるようになった。
- ・体育では、自分で取り組みたいことを選択する機会を設定すると、自分に合った内容を選択できるようになった。
- ・愚痴を言うことはなくなることはなかったが、事前に愚痴を言わないように伝えたと、言わない様子があった。
- ・自信を持てることには、積極的にできるようになった。
- ・事前に正しい態度を伝えたと、正しい態度ができた。
- ・友達が欲しい様子であるが、なかなかコミュニケーションが上手にできなかった。
- ・期限や約束事を守ることが難しく、今後は優先順位の付け方を学習する機会が必要である。

（５）まとめ

○成果

- ・役割を与え、できたときには褒めると率先して行えるようになった。
- ・自分で選択する機会を設定し繰り返し行うことで、自分に合った内容を選択できるようになった。
- ・環境に配慮（グループ編成や見通しを持てるような支援など）をすると、グループ内の困った人を助けたり、責任を持って取り組んだりする様子があった。
- ・事前に正しい行動を伝えたと、場所と人に応じた対応ができた。
- ・今回の研究を通して、本生徒に対するいろいろな見方ができた。褒める観点を見つけられるようになった。

○課題

- ・場面に応じて、相手に与える印象や会話の仕方などが分かるとより良い。
- ・愚痴を口に出さないようになれると良い。
- ・期限や約束事が守れると良い。

NO.10

トラブルに巻き込まれやすい生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | |
|--|-------------------------|
| ・素直な性格 | ・苦手なことでもあきらめず取り組むことができる |
| ・真面目（家で勉強したり復習したりする） | ・手先が器用 |
| ・仕事を覚えるのが早い | ・理解力がある |
| ・ふわふわした女の子らしさ | ・社会の勉強を頑張る（結果には結びつかない） |
| ・柔らかい雰囲気 | ・物腰の柔らかさ |
| ・良い表情で挨拶することができる | ・人の話を聞くことができる |
| ・来る人を拒まず接することができる | ・友達思い |
| ・細かいことに気が付く | ・愛嬌があり人に可愛がられる |
| ・相手の話を聞いたりアドバイスをしたりする | |
| ・物事をすぐに習得できなくてもコツコツ努力を重ねることができる | |
| ・生活面や勉強面でできない生徒に対して優しく教えたり助けたりすることができる | |

② 課題

- | | |
|---|---------------------|
| ・打たれ弱い | ・打たれ弱く落ち込んだり泣いたりする |
| ・親や友達に頼る、甘える | ・我慢するというけど我慢できない |
| ・嫌なことから逃げがち | ・色々なことに敏感に反応しすぎる |
| ・女子らしさ全開 | ・一人で行動できない、常に誰かとつるむ |
| ・声が小さい | ・分からない時にすぐに聞けない |
| ・負の出来事に対してその場でこらえきれず涙が出てしまう（我慢する力が足りない） | |
| ・周りに振り回され自分の考えや意見が人に流される | |
| ・自分の意志が弱い、泣いて主張することがある | |
| ・時間内に制作が終わらずその後どうするのか何度か声をかけたけどそのままの状態にする | |
| ・自分の想いを主張、相談できずただ泣く幼さ | |
| ・相手に気持ちや意見が伝えられない | |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | |
|-------------------------|
| ・なぜかトラブルに名前がある（トラブルの中心） |
|-------------------------|

② 想定される課題の原因・背景

- | | |
|---------------------|------------------|
| ・打たれ弱い | ・自分の意見、想いを伝えられない |
| ・打たれ弱いふりをしている | ・本当 |
| ・「か弱い」＝「支援」とご学習している | ・精神的な幼さ |
| ・自信がなく依存的 | ・人間関係 |
| | ・家庭環境 |
| | ・自分中心の考え方 |
| | ・自信のなさ |

• 人の意見に流される	• 母子家庭	• 家族、祖母が怒る	• 過保護
• よく電話してくる	• 育った地域		
• できることとできないことが分かっていない			
• 母から父に対して否定的な言動を聞かされて育ったから			

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- | |
|--------------------------------|
| • 伝え方がわからない • 嫌われたくない気持ちがある |
|--------------------------------|

「必要だと考える環境」

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 表情や態度で気持ちを表したときは、あえてスルーし正しい伝え方のときに応えるようにする • 自分の意見を素直に表現できない他人の話を聞く態度を育てる • 人間関係を整理して対応の方法を学ぶ • positive ノートを作成し相手の気持ちの別な見方や捉え方を考える • コミュニケーションを円滑に行えるような学習環境 • 嫌われたくない表現力を磨く（練習ができるような学習環境） • 泣いても相手にしない（自分で伝えられるまで待つ） • 面談をする上でどうすればよかったか何を伝えればよいか振り返るようにする • 情報との付き合い方（LINE とか簡単に教えない、返信とかもすぐにしない） • 成功体験の積み重ね（自己肯定感アップ） • 場面を切り取り、自己、他者の言動の背景を分析する • 裏と表の世界自分の悪いところに気付くこと • 以前から知っている人たちじゃない人との関わる • 自分の気持ちの記録、教師と話を書き留めたり振り返ったり自己、他者理解を深める • 場を設定し補足や説明をしながら伝える（練習する） • 経験不足による自分中心な所に気付くこと • 同世代じゃない人との関わり（人間関係を深める） |
|--|

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○自分の置かれている状況を把握し、適切なコミュニケーションの方法を理解することができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する こと	○ (1)情緒の安定に関する こと	○ (1)他者とのかわりの基礎に 関すること	(1)保有する感覚の活用に関する こと	(1)姿勢と運動・動作の基本的 技能に関する こと	(1)コミュニケーションの基礎 的能力に関する こと
	(2)病気の理解と生活管理に関する こと	○ (2)状況の理解と変化への対応に 関すること	○ (2)他者の意図や感情の理解に 関すること	(2)感覚や認知の特性について の理解と対応に関する こと	(2)姿勢保持と運動・動作の補 助的活用の活用に関する こと	(2)言語の受容と表出に関する こと
	(3)身体能力の状態の理解と養 護に関する こと	(3)障害による学習上又は生活上 の困難を改善・克服する意欲に 関すること	○ (3)自己の理解と行動の調整に 関すること	(3)感覚の補及び代替手段の 活用に関する こと	(3)日常生活に必要な基本的動 作に関する こと	(3)言語の形成と活用に関する こと
	(4)障害の特性の理解と生活習 慣の調整に関する こと		○ (4)集団への参加の基礎に 関すること	(4)感覚を総合的に活用した周 囲の状況についての把握と 状況に応じた行動に関する こと	(4)身体機能の能力に関する こと	○ (4)コミュニケーション手段の 選択と活用に関する こと
	(5)健康状態の維持・改善に関する こと			(5)認知や行動の手掛かりとなる 概念の形成に関する こと	(5)作業に必要な動作と円滑な 遂行に関する こと	○ (5)状況に応じたコミュニケーションに 関すること

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	・学習や委員会活動など、生徒主体の話し合いや活動の場面（教師の見 守りがある中での活動）
指導内容 (目指す姿)	・他の人を巻き込まないで、自分の意見を伝えることができる。

指導方法 (手立て)	・活動を肯定的に捉えて取り組めるようにするため、事前に、予想される活動内容を一緒に考え、自分の役割を明確にすることで見通しをもたせる。(いずれは大人の支援なく見通しをもつことができることが目標) ・自己選択、自己決定を促す。 ・事後に振り返りを行い、評価を大切に自信につなげる。
---------------	---

(4) 指導の結果

- ・小さい声ではあるが、自分から「分かりません」や相談するなどの意思伝達をするようになってきた。
- ・自信が付き、大人に依存する行動が減ってきた。
- ・体育やアルバム委員の活動などで、小さいグループではあるがまとめ役として行動することができてきた。
- ・一般就労であることにプライドをもつよう伝えたところ、自信につながった。
- ・意思表示のタイミングや伝え方を身に付くまでには至らなかった。
- ・大人に相談することができるようになったが、自分で考えて行動した結果どういう風になるかという経験までできなかった。

(5) まとめ

○成果

- ・事前に予想される活動内容を一緒に考え、自分の役割を明確にすることで、活動を肯定的に捉えて取り組めるようになった。
- ・友人との関わりにおいて、トラブルになりそうだと感じると大人に相談することができた。
- ・役割を与えることで、甘えることが減り、責任感をもって活動することができた。
- ・周りに甘え、頼ってしまう場面を減らすことで、自信につながるが増えた。

○課題

- ・考えることや指示理解に能力的な限界が来ることが予想される。
- ・職場でステップアップを求められたとき、どういう壁があるか、どういう力が必要かなどの見通しをもたせる必要がある。
- ・就労に向けて、意思表示のタイミングや伝え方などの知識や技術的なものを身に付ける必要がある。

NO.1 1

気持ちのコントロールが苦手なことに課題のある生徒

(1) 実態の整理

① よさ

- | | |
|---|-------------------------|
| ・女子のリーダー | ・リーダーシップがある |
| ・疑問点をすぐ口に出すことができる | ・リーダーシップを発揮することができる |
| ・女子やチームを引っ張る | ・発言力と推進力があり級友から一目置かれている |
| ・誰にでも優しい（気遣いができる） | ・面倒見が良い |
| ・コミュニケーション能力が高い | ・気が利く |
| ・調べてまとめることが上手 | ・芸術的センスが優れている |
| ・美術、作業など手先が器用 | ・縫工作業の技術 |
| ・学級で話したり雑談したりするときに全員に話を振ることができる | |
| ・遅れをとっている友達を見かけると手を差し伸べることができる | |
| ・表面的には分け隔てなく優しく声をかけたり手伝ったりできる | |
| ・生活面や勉強面で自分よりもできない生徒に対して優しく話したりすることができる | |
| ・友達が困ったりトラブルになったときに相談にのったり教師に報告できる | |
| ・相手の事情を思ってやることができる | |

② 課題

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| ・学校のルールが守れない | ・苦手な授業はさぼる |
| ・ルールは守れない | ・自分勝手な所がある |
| ・自分勝手 | ・人の好き嫌いが激しい |
| ・自分よりもできる子とは関わろうとしない | ・人の選り好みある |
| ・本心を見せようとするしない | ・活動を選択するときがある |
| ・他の生徒を巻き込む | ・好き嫌いが激しくメンタルの浮き沈みが大きい |
| ・気持ちや体調不良を全面的に態度に出す | ・気持ちにムラがある |
| ・気分が態度に出る | ・感情のコントロールが苦手 |
| ・ストレスをためがち | ・方向音痴 |
| ・ロッカーや身なりなどが乱れている | |
| ・指導、注意に弱い（できないこと、やったことないこと苦手） | |
| ・規範意識が低く校則当を自分のルールで変えてしまうことがある | |
| ・偽りの言動、行動が多く何が真実か知られたくない感が強い | |
| ・感情のコントロールが不得意でものや人に当たってしまうことがある | |

(2) 指導目標の設定に向けて

① 中心的な課題

- | |
|---------------|
| ・感情のコントロールが苦手 |
|---------------|

② 想定される課題の原因・背景

・周りの意見を聞きすぎる ・周りの目を気にしすぎておかしくなる ・人より良く見られたい（見た目、体型） ・認めてほしい ・正しいストレスの発散の方法を知らない ・意外と理解できていない ・喧嘩⇒仲直りの経験がない ・体調に左右される ・勉強ができる妹と比較される ・家庭環境 ・生育歴 ・あまり注意されずに育つ ・周りからできるや褒められて育ってきた ・過去の嫌な思い出がある ・気持ちの受け止めてくれる人がいない	・周りと自分を比べることができる ・自分が1番でいたい ・人に良く見せよう（性格） ・感情を出すことでスッキリする ・素直になれない ・成功体験が少ない（相談して解決できたなど） ・感受性が豊か ・家庭での障害理解が低い ・母も本人と同様不満爆発させている ・我がままと聞いてもらえる家庭環境 ・家庭が安定していない ・愛されている自信がない ・小、中学校の手厚い指導 ・甘えられる時期に甘えさせてもらえなかった ・不機嫌だと周りが気を使ってくれと誤学習
---	---

③ 指導すべき課題と必要な環境

「指導すべき課題」

- ・人より良く見られたい！一番でいたい、認めてほしい

「必要だと考える環境」

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・達成感、成功感を味合わせる ・解決する、経験力 ・達成感を確実に味わえる場の設定 ・失敗したときにとことん同じ対応する ・本人が良いことも悪いことも吐き出す場面を設定する ・失敗や起こってないことに対する不安を軽減するためのスキルを与える ・誰にでもできること、できないことがあり助け合っていることに気付くきっかけ ・できない苦手なことがある姿も含めて好きだよと示す（教師側で） ・一番になれなかったときの解決手段を考えることができるようになる ・自分の障害を知り、どのように折り合い生きていくか考えること ・教科の学習で知識、技術よりも自分の考えを話す場を設ける ・分からないできないは恥ずかしいことではない、分からないことを分からないと知る環境づくり ・みんながわかるできる内容を取り上げて学習を進める | <ul style="list-style-type: none"> ・できる活動から与える ・できない自分を受け入れてもらえる人間関係 ・目標設定をする上で基準を明確にする ・得意分野で成功体験を積む |
|--|---|

(3)「指導目標」、「指導内容」、「指導方法」、「指導の場」の設定

＜自立活動の指導目標（後期）＞

○他者の評価を素直に聞く（その後の目標は、他者の評価を素直に受け入れる）

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選 定 さ れ た 項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	(1)情緒の安定に関すること	○ (1)他者とのかわりの基礎に関すること	(1)保有する感覚の活用に関すること	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	(1)コミュニケーションの基礎的機能に関すること
	(2)病気の機理解と生活管理に関すること	○ (2)状況の理解と変化への対応に関すること	○ (2)他者の意図や感情の理解に関すること	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的機能の活用に関すること	○ (2)言語の受容と表出に関すること
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関すること	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	○ (3)自己の理解と行動の調整に関すること	(3)感覚の補及び代用手段の活用に関すること	(3)日常生活に必要な基本的動作に関すること	(3)言語の形成と活用に関すること
	(4)障害の特性の理解と生活習慣の調整に関すること		(4)集団への参加の基礎に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	(4)身体の運動能力に関すること	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
	(5)健康状態の維持・改善に関すること			○ (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場 (指導者)	体力づくり・保健体育	作業学習
指導内容 (目指す姿)	結果をその場において聞くことができる	授業中の態度について、気持ちに左右されないで取り組む。

指導方法 (手立て)	・本人に「授業に参加する」という目標であることを約束する。 ・評価を技能面の成果にしない。 ・自分の他者との比較の必要のなさについて全体に伝える。 ・活動ができないときは、理由を確認する。 ・目標設定は、他の生徒同じ観点に統一する。 ・自分で目標を達成できるための手立てを考えさせる。	・場面の設定をする。 ・ルールや約束を提示する。 ・学校以外の情報や実体験する場面を設定する。
---------------	---	---

(4) 指導の結果

- ・態度は、別としてその場において話を聞くことができるようになってきている。
- ・一人にいる時は、気持ちが左右されず活動することができるようになってきているが、周囲に影響を受けて気持ちが左右する傾向がある。
- ・気持ちが左右されている時に、自分で気持ちを整えるための手立てを持つことができるようになってきた。(一人になる時間を作る、教師へ相談する)
- ・ポジティブなことやネガティブなこと思ったことを口に出すことで、周りに影響を及ぼすこともある。
- ・失敗を異常に恐れている傾向があり、褒められる事でバランスを取っている。
- ・話をする内容を人によって変えている。

(5) まとめ

○成果

- ・その場において話を聞くことを意識させることで、その場において話を聞くことができるようになった。
- ・一人にいる時は、気持ちに左右されずに活動することができるようになった。
- ・気持ちが左右されている時に、自分で気持ちを整えるための手立てを持つことができるようになってきた。
- ・『褒められる』ということで、失敗に対する本人の気持ちのバランスを取っている。
- ・相手の立場を考えて、自分の相談したい内容に決めることができる。

○課題

- ・その場に相応しい態度で、最後まで話を聞くことができていない。
- ・周囲に影響されずに気持ちを落ち着かせて活動することができていない。
- ・ネガティブな発言を咄嗟にってしまう。
- ・褒められないことでも失敗に対する恐怖心に帯するバランスを取ることができていない。